第1回 岡谷小学校のあり方検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

平成25年5月27日（月） 午後7時～午後9時30分

2 場所

岡谷市役所6階 605会議室

3 出席者

委員 原豪志委員、林裕一委員、宮崎勇委員、三村田卓委員、藤森眞由美委員、林幸三委員、小林啓助委員、薩摩林忠美委員、沓掛貴芳委員、田中沙里委員、濱一平委員、武居崇委員、原史郎委員、八幡義雄委員、原山智委員、森本健一委員、荒深重徳委員、岩下貞保委員（名簿順）
計18名（欠席者：古本吉倫委員）

岡谷市・岡谷市教育委員会

草間吉幸教育委員長、古屋博康教育部長、河西稔建設水道部長、吉澤洋人教育総務課長、山本文明土木課長、橋爪哲也企画課長、小口直伸土木主幹、三澤達也学校教育主幹、高橋卓教育企画主幹、清水亮教育総務課主査、八幡学土木課主査、宮坂洋平教育総務課主任

○会議次第

1 開会 午後7時

（事務局から、本日の委員会について、傍聴（報道含む）を許可するかどうかについて意見を求めたところ、委員より許可した方がいいとの意見が出され、委員に諮った結果、異議なく許可することとなった。また、事務局から、委員名簿を報道へ提供することと、ホームページに掲載することについて問題ないかどうかを委員に諮ったところ、異議なく許可することとなった。）

2 委嘱書の交付

草間教育委員長より交付

3 教育委員長挨拶

本日は大変お忙しいなか、また、1日のお仕事の後のお疲れのところ、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様におかれましては、岡谷小学校のあり方検討委員会の委員を快くお受けいただきまして、深く感謝申し上げます。

さて、岡谷市および岡谷市教育委員会では、市内学校施設の耐震改修の完了目標を平成27年度末と定め、整備を進めてきております。

岡谷小学校の耐震化につきましては、現在までに南体育館の耐震改修を終え、残る校舎の耐震改修に向けて準備をしまいましたが、その中で、地表面の沈下や校舎建物の亀裂、コンクリートの剥離等が確認され、それらが次第に顕著になってきました。岡谷小学校の耐震改修計画を具体化するにあたり、校舎の適正配置を含めた地質状況の把握と、地表面の沈下等の原因を確認することを目的に、平成23年度から業者に委託して地質調査を行いました。その結果、岡谷小学校敷地は、かつて学校敷地造成のための盛土が行われ、この盛土地盤が非常に軟弱であることが分かりました。

岡谷市および岡谷市教育委員会は、調査結果を踏まえ議論を深めた結果、児童の安全を第一に考えたときに、将来にわたって現在の敷地を学校敷地とすることは適さないものと判断をしたところでございます。

本委員会では、この調査内容と結果につきまして、まず検証いただき、そのあと今後のあり方についてご検討のうえ、ご提言をお願いしたいと考えております。

委員の皆様には、忌憚のないご意見を頂戴するとともに、建設的なご提言をいただきますようお願い申し上げます。

岡谷小学校は、開校して140年という、歴史と伝統ある学校でございます。いろいろな方の岡谷小学校に寄せる想いを大切にしたいと思っておりますと同時に、児童の安全・安心を最優先に考えることが重要であると考えております。

結びになりますが、委員の皆様の格別なるご理解とご協力をお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

4 委員の紹介

- ・ 古屋教育部長より紹介
- ・ 事務局自己紹介

5 委員長選出及び副委員長指名

<委員長選出>

(事務局から、委員長は識見を有する方から選出してはどうかと提案したところ、委員より、事務局の方で提案があればとの意見が出された。事務局案として、知識と経験が豊富で、地域でも区長として活躍されている八幡義雄委員を提案し、委員に諮ったところ、異議なく選任された。)

<副委員長指名>

(要綱第5条第3項により、副委員長には、委員長から岡谷区長である林幸三委員が指名され、委員に諮ったところ、異議なく選任された。)

(また、その際に次の事項を委員会で確認した。)

- ・ 委員長、副委員長ともに、個人の意見を言えること。
- ・ 全ての委員が公平に意見を言えること。

6 議事

(要綱第6条により、八幡義雄委員長を議長として議事開始。)

<議事の内容>

- (1) あり方検討委員会の運営について
- (2) 地質調査結果及び地質調査結果説明会の状況について
- (3) 今後の日程について
- (4) その他

【委員長】

(1) あり方検討委員会の運営について、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

(事務局から、岡谷小学校のあり方検討委員会設置要綱について説明。)

【委員長】

ただいまの説明に対して、確認したいことや質問はありますか。

【委員】

なし。

【委員長】

なければ次に移ります。

【事務局】

(事務局から、今後の会議の公開について次の3つの考え方を説明し、委員に諮った。)

- ①全て公開にする。
- ②原則公開とし、非公開にした方がよい場合は、全部又は一部を非公開にする。
- ③全て非公開にする。

【委員長】

この件について、ご意見をお願いしたい。

【委員】

原則公開で、必要に応じて非公開という形がいいと思う。

【委員長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

それでいいと思う。報道関係の方がいらっしゃるので、是非ともお願いしたいが、発言をするなかで、後で考えるともうちょっと深く考えて言えば良かったという場合や、他の委員の意見を聞いて意見が変わる場合もある。そこで、どの委員が何と言ったかということについては、是非報道を避けていただきたいと思うが、いかがでしょうか。

【委員長】

このことについて、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

後ほど、議事録の公開のところで説明する予定でしたが、プライバシーの問題やいろいろな立場もある。議事録は公開したいと思っているが、発言者の氏名は伏せて作成したいと考えている。また、議事録はまず委員の皆様を確認していただいたうえで、公開したいと考えている。会議録は、発言の要旨が分かる要約版で毎回作成したいと考えている。

【委員長】

いかがでしょうか。

【委員】

私も岡谷小のPTAという立場で出ているが、保護者の中にもいろいろな意見がある。学校を残してほしいという意見や、危ないので別のところにしてほしいという意見等様々である。例えば、私が学校を残した方がいいと意見をした時に、そうでない反対の方から、誰々さんはあのように言っていた、というようなことを言われることがあるので、その辺りに気を使っていたきたい。いろいろな方から意見を伺うようにしており、関心がある方も、関心が無い方もいるが、皆さんの意見を聞くなかで、自分の意見ができてくると思う。報道の方がいらっしゃるので、公開されているということで非常にフェアな話し合いができるためメリットが大きいと感じているが、一方で、心配なこともあるので、くれぐれも報道の方にはお願いしたい。

【事務局】

私どもとしましては、皆様に自由な意見をいただきたいと考えているので、報道の方には、発言者名を伏せていただくように要請したい。

【委員】

私は逆にオープンにしていきたい。委員でない人にとっては、不信感を抱くと思う。全てをオープンにして出していただきたい。初めから不信感を抱かすのは、委員会にとっても良くないと思う。

【委員】

この席上で、どういう意見が出たかということ公開することはいいと思うが、いちいち誰が何を言ったかということは、報道しない方がいいと思う。

【委員】

私も同感。誰が何を言ったかということは、削除していただきたい。

【委員】

言った本人が、後であれば自分が言ったんだよというように、本人が言うのはいいと思うが。

【委員長】

議事録をどういう形で公表しようと考えているのか、事務局の方で説明をお願いしたい。

【事務局】

先ほども申したが、議事録は発言の要旨が分かる要約版を毎回作成し、公開したいと考え

ている。公開の方法は、ホームページに掲載することや、また紙で作成して、区の回覧板や学校等で必要ということであれば、お配りしたい。発言者の氏名は伏せる。

【委員長】

会議の内容は公開するが、非公開の部分の設けておくということだと思うが、いかがでしょうか。非公開にする場合は、皆さんにお諮りして、これから先は非公開でというような形になる。よろしいでしょうか。

【委員】

名前を伏せても、議事の内容を公開するということなので、公開に値すると思う。我々はいろいろな方からお願いを言われて来ているので、名前が出ると自分が思ったことが言いにくいとか、活発な意見交換をするためにも名前は伏せた方がいいと思う。

【委員】

一部非公開という部分を作っておくと、何かうまいこと都合の悪いところだけを隠されていいようにやられてしまう、というようなこともあると思うので、公開に賛成。ただ、自分の周りにもいろいろな意見があるので、例えば、私が学校は残した方がいいと言った場合に、賛成の方からはよく言ってくれたとなるが、反対の方からは、何を言ってるんだということになってしまうので、一部を非公開にするという部分はあっていいのかなと思う。発言の一部分を捉えられて、報道に出たこともあった。

【委員長】

基本的に公開し、皆さんにお諮りして、非公開にした方がいい場合には非公開にするということでもよろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【委員長】

では、この件については、事務局の案に従っていきたくないのでよろしくお願ひしたい。次に移ります。

【事務局】

(事務局から、傍聴に関する注意事項について説明。)

【委員長】

傍聴に関する注意事項は、議会の傍聴規則を参考にしながら作成したということですが、何かご意見ありますか。

【委員】

なし。

【委員長】

注意事項は入り口で示すということか。

【事務局】

はい。配布もしたり、会議室内にも掲示したいと考えている。

【委員長】

よろしいですか。

【委員】

マスコミには、名前を伏せていただくようお願いできたが、一般の傍聴者がブログ等で誰々が何を言ったかのようなことを書かれる心配がある。

【委員長】

注意事項のなかで、その辺りのことを加えられればよろしいか。

【委員】

はい。

【事務局】

皆さんがそのようなご意見であれば、そのようにさせていただきたい。文章的にどうするかについては検討させていただき、次回お示しさせていただきたい。

【委員長】

次回ということではよろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【委員長】

次に移ります。

【事務局】

(事務局より、会議録の作成と公開について説明。)

【委員長】

会議録の公開は、公開前に委員に確認したうえで行うとのことであるが、メールでのやりとりができない人についてはどうするか。

【事務局】

後ほどメールアドレスを教えていただければと思っていたが、無い方には、こちらからお持ちするなり、郵送するなりになると思う。

【委員長】

時間がかかることになるが、どのくらいで公表するか。

【事務局】

大体、2週間程度が目途だと考えている。

【委員長】

公開前に調整が必要になるが。

【事務局】

委員の方に確認していただく時間がどのくらいかかるかによって、3週間ということもあると思う。

【委員長】

委員の確認の後で、もう一度最終案が示されるということか。あまり時間がかかりすぎて、公表する本来の目的にも支障がある。そんなに時間がかからないようにやるということであれば、皆さんに照会して、修正したらもう一度の確認はしないということによろしいか。もし万が一、勘違い等あればその後で修正をするということ。

【委員】

異議なし。

【委員】

2回目（現場視察）が6月8日に予定されている。次回まで2週間もないが。

【委員長】

現場視察を早めに行いたいという意見がある。以降は、1ヶ月か1ヶ月半を目途に開く予定でいる。

【事務局】

今回は、岡谷小学校を見ていただきたいと考えている。調査した業者にも来ていただいて、若干質疑応答の時間を設けたい。

【委員長】

あり方検討委員会の運営につきましては、以上でよろしいでしょうか。

【委員】

異議なし。

【委員長】

次に、(2) 地質調査結果及び地質調査結果説明会の状況について、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

これまでのおさらいのようになるが、調査結果の説明をもう一度させていただきたい。（事務局から、これまでの説明会で使用した資料をもとに、改めて地質調査結果の説明。）

【委員長】

現場に歪み計が設置されているが、歪みがある一定以上になると、警報が付いているというようなことか。

【事務局】

警報が鳴るということではなく、記録をとっている。

【委員長】

平成18年7月豪雨災害では、上の原から広範囲に災害が生じており、いずれも塩嶺累層である。塩嶺累層は、諏訪市の中ノ沢まで広がっており、風化が進んでいる。風化が進んでいるところは、N値が少ない。N値というのは、60kgの重さで叩いて30cm下がるのに何回打つかということ。N値が5というのは、5回叩くと30cm下がってしまうということで、

軟らかいという目安になる。

【委員】

塩嶺累層は、諏訪地域に広く位置し、昔の火山の噴出物だとお考えいただきたい。溶岩や火山灰が固まった凝灰岩等で構成されている。いずれにせよ、130 万年間の時を経ているので、様々な噴火等の作用を受けている。具体的には、様々な粘土質のものが形成されているため、岩質としての軟弱化を招いていると理解できると思う。

【委員長】

ボーリングはある程度限られた点や線で行うため、なかなかデータ化は難しいが、先ほどの側線からいうとかなり風化が進んでいるようだ。敷地の盛土の N 値が一桁である。一般的に道路とかを盛土すると、N 値は多分 15 とか 20 くらいは出る。造成された明治 42 年頃には、おそらく盛土をする機械が無かったと思われる。先代の方は苦勞して造成されたと思うが、十分に締め固めをされていなかったのかなという感じがしてしょうがない。盛土の N 値が少ないことについて、いかがですか。

【委員】

この数値を見て驚いた。現在の建築では考えられない。

【委員長】

地質調査の結果について、質問があればお願いしたい。後日（6 月 8 日）、現地視察を予定している。また説明があると思うが、こんなところを現地で見たいとか、何かあれば意見をお願いしたい。

【委員】

盛土の N 値を上げる方法はあるか。

【委員長】

重機を使い、ある程度層ごとに定圧していく。段切りにして、階段状に 50 cm くらいで定圧していくと、かなり締め固めることができる。ただし、その当時は機械がなかったもので、大きな丸太に棒を付けたような道具で締め固めたのだろうと思う。

【委員】

逆に言うと、今なら学校敷地の N 値を上げることはできるということか。

【委員長】

建物がある下を改良するには、横の方からボーリングして、地盤改良材を入れるなど絶対に不可能ではないが、かなり大変な作業になる。

【委員】

例えばグラウンドに校舎を建てて、今の校舎を壊してグラウンドにして地盤を固くすることは可能か。

【委員長】

絶対に不可能ということではない。ただ、その期間中も授業をしなければいけないので、仮校舎で授業をしてもらう必要がある。そのあたり、市はどうお考えか。

【事務局】

これまでの説明会等においても、そのような意見を頂戴している。具体的に校庭の追加調査をしたらどうかというご意見も頂戴しており、今、その方向で調整している。追加調査の結果は、この委員会でご報告する。グラウンドに校舎を建て、校舎があるところをグラウンドにしたらどうかというようなご意見については、市としては、今のところ敷地全体として捉えた時には、極めて難しいという判断をしている。

【委員】

保護者説明会の際に、調査結果によっては、グラウンドに校舎を移して岡谷小を残すことができるかどうか質問したが、事務局からそれはありえない、どのような結果が出ようとも、あの場所に学校を残すことはないとの回答であった。その辺りはどうなのか。

【事務局】

学校敷地全体として建物の配置を含めて考えた時に、現在の盛土部分の軟弱さを改良することは極めて困難であるとの判断をしている。この場所に学校を存続させることは困難であるとの考えた方は変わっていない。矛盾するようではいけないが、現在までの調査によって、学校敷地としての適否は判断している。追加調査を行うのは、調査が不足しているからということではなく、そういったご意見を頂戴していることや、先を見据えたときにグラウンドのデータをもつことはマイナスにはならないと考えているためである。今までの調査結果を補完する意味で調査を行い、ご説明していきたい。

【委員】

保護者の意見を取りまとめると、その点が一番納得できないというか、よく分からない。調査はするけど、結果は変わらないということであれば、何のために調査をするのか。

【事務局】

お叱りをいただくかもしれないが、現地で存続する、しないという話題だと思うが、私もとすると、敷地の適否については、既に判断をつけていると考えている。学校を現地で存続できないということにご理解をいただいたとしても、あの場所の盛土をそのまま放っておいていいのかということもある。ではその先、周辺に対する影響を含めてどのようにしていくかを考えた時に、グラウンドの確認は必要であると考えられるため、その意味では無駄ということはないと考えている。ただし、今それを言うと、ありきの話になってしまう。調査不足だから追加調査をするのではなく、現在までの調査結果のなかで判断している。その辺りがなかなか受け入れがたいというような部分で、いろいろなご意見を頂戴しているし、いろいろな思いの方がいらっしゃる。今回の調査結果や対策工事が非常に難しいところを、議論の中で、われわれも説明していく必要があると考えている。ただ、今の時点では、グラウンドがいいからといってグラウンドに校舎を建てました、それでオーケーです、というようなことにはなかなかないと判断している。

【委員長】

土砂災害防止法の指定を平成 21 年 3 月に受けている。次回、資料として提出していただき

たいが、学校の周りが全て急傾斜の指定がかかっている。ここに建物を建てる時に、急傾斜の斜面にどういう負荷の影響がかかるかを検討しないと、建物等を建てる許可が下りない。土砂災害防止法は、こういった所に、こういう状況があるから周知してください、ということが目的である。急傾斜地崩壊地対策事業というものがあるが、急傾斜地法で指定がかかっているところを現地で見たら、下の方に擁壁が整備されていた。急傾斜を含めて、周辺にどういう指定がかかっているかが分かるように、次回の現地視察の時に資料の提出をお願いしたい。急傾斜と崩壊地の指定と土砂災害防止法の指定が分かる資料を。要は赤が特別警戒区域で、黄色が普通の指定。下と上で、具体的には水の排水処理をしなさいという条件が付く。現地は排水に配慮されていて、排水路が設けられていたが、少し傾いているところがあった。指定がかかっているところに建物をもっていくことができるかどうかは、地盤の状況によるが、検討の必要があるのかなと思う。

【事務局】

次回、現地を見るときに資料としてお出ししたい。説明会するときにも話があったが、岡谷市民の方には防災ガイドをお配りしているが、洪水土砂災害マップのところに、岡谷小の記載がある。いずれにしても、資料をお出ししたい。

【委員長】

是非お願いしたい。他に質問は。

【委員】

先ほど、盛土部分の N 値が小さいという話があったが、誤解のないように話をしたい。N 値が小さいが故に校舎を建てる際には、杭を打っている。必ずしも盛土部分の N 値が小さいから問題だということではないと思う。N 値が小さいが故に、支持杭を打って建てられている。

【委員長】

おっしゃる通り。土を期待しないで、杭で持たせる設計をしている。ただし、土が横方向に滑り始めることを検討していない。

【委員】

N 値が小さいから、盛土の N 値を上げていけば何とかなのでないかという発想になってしまうが、それだけが問題なら、諏訪湖周辺の公共建築物はみんな同じ状況であり、N 値は 3 あるかないというところに建っている。ここで心配しないといけないのは、そのようなことではなくて、もの凄い大雨や大地震が来たときに、盛土部分さら滑っていく危険性があるのかなのか、ということだと思う。

【委員長】

東日本大震災で大きな災害が起きた内陸部では、造成している盛土と切土では明らかに被害が異なり、盛土の方が被害が大きい。盛土は長い揺れに対して構造的に弱い。先ほど、諏訪湖周辺の話があったが、軟弱地盤のため杭でもたせている。ただ、横方向の過重をかけて検討している。ここは、斜面が動いてきたときの荷重をかけて設計しているかどうか

が心配である。地山が斜面に沿ってずれてきたら、相当な力が働く。杭はあくまでも垂直方向の力を支えるためにあり、多少は横方向の力も支える構造である。横方向の滑りが生じて大きな荷重がかかったときに、はたしてもつかどうかを検討したかどうか。

【委員】

杭を使って校舎を建てたら、N値はあまり関係ないということか。

【委員長】

N値が小さいと盛土部分は抑えられないので、滑った時には、加重が谷側に相当かかる。

【委員】

杭ごと傾くというようなことか。

【委員長】

そのとおり。

【委員】

N値を上げるために、地盤を締め固めても関係ないということか。

【委員長】

N値が上がればばねが強くなる。地盤改良すれば横方向に対しての力がつく。杭を斜めに打つという方法もあるが、上に建物があるのでこれからでは難しいが。

【委員】

断面図を見ると、杭がN値の高いところまで深く入っていないことが気になる。

【委員長】

N値50のところ、基礎地盤がでていないということで止めたのではないか。

【事務局】

ちょっと訂正ですが、断面図の杭の表示は、断面図を作ったI側線上に建物があってそこに杭がある、ということではなく、位置関係が分かるように示している。

【委員長】

投影しているということですね。

【事務局】

そう、投影している。杭そのものは、管理教室棟で全体で90本余打たれているようで、それぞれが支持層まで届いている。一番長いもので20mを越える杭や、また6~7mくらいの杭を場所に応じて打ってあり支持力が得られているので、垂直方向の荷重に耐える作業をして、管理教室棟が建てられている。ただし、盛り土の状況が非常に厳しい条件であると見ている。

【委員長】

平行移動というか、投影させているというか。

【事務局】

投影して、どんな位置関係かを示している。

【委員長】

I 側線が建物があるところを通せないので、投影して図面を作っているとのこと。

【委員長】

今までの説明で質問があれば。

【委員】

なし。

【委員長】

では、次回、法規制の関係の図面を持ってきていただいて、具体的に規制がかかるとどんな条件になるか説明をお願いしたい。現地で説明していただいた方が分かりやすいかなと思う。

【委員】

調査結果に、盛土の沈下については直ちに緊急性がない、とあるがこれはいつを危ないと想定しているのか。

【事務局】

斜面に盛土したということで、ゆっくりではあっても、地滑りが生じているかどうかを危惧していた。調査のなかで、歪み計を設置していたのはそういうことで、ただ単にボーリングをして N 値を調べたということではない。その結果として、歪み計の累積データは非常に小さく、総体的には地滑りが起きている状況ではないため、それをもって直ちに危険ではないという表現をしている。ただし、歪み計の数値でいうと、若干累積していく傾向があるため、潜在的な滑り面の有無は断定できないが、継続して観測していかざるを得ないところがある。計測して短期的には大丈夫だろうということで、直ちに危険ではないとした。ただし、長期的にはその辺りが不安要素であるため、直ちには危険ではないが、今後、学校敷地としての適性という面から、望ましくないというデータが重なってきたため、適さないという判断をした。明らかな滑り面や地滑りが特定できるような状況にはない。そういうことがあれば、悠長に検討している時間もなく大変なことになるが、そういう状況にはない。

【委員】

歪み計を置いた期間はどのくらいか。

【事務局】

平成 23、24 年の 2 年間。現在も継続している。

【委員】

2 年間での数値は、どのくらいか。

【委員長】

累積の変動値は、何 cm、何 mm とかそういうことではなく、無次元量というか、マイクロストレインという話で、わずかではあるが、累積傾向にあるということ。滑り面の存在の断定はできないが、継続して観測しなければいけない傾向にある。

【委員】

どのくらい累積すると滑るのか。

【事務局】

それについては、もっとお詳しい先生がいらっしゃるのです。

【委員】

地滑りの定義がある。どのくらい移動すると地滑りなのかという。

【委員】

2年間の数値を累積して、地滑りするのは例えば200年後というような結論が出るのなら、今建替えても問題ないのではということになるし、そういうことをお聞きしたい。

【委員】

それは、現在の状況がずっと同じという仮定のもとでの話である。活断層が動いて大きな地震が起きたり、大水の時に地下に浸透するようなことが起きれば、定常的な動きの説明はできないことになる。

【委員】

現状でいいです。

【委員】

現状がずっと続く保障がない以上は、今の話は無駄ということになる。

【委員】

活断層とは別の話ではないか。

【委員】

別の話ではあるが、地盤が動くきっかけが何らかの形でありうるということは、想定する必要がある。

【委員】

はっきり分からないということか。

【委員】

いつ何日に起きるかなんてことは言えないので、想定する必要があるということ。

【委員】

今の資料で、何年後くらいが危ないというのは、出ないということか。

【委員】

出ない。

【委員】

雨などが引き金になることがあるが、現状においてはほとんど動かないということか。ただし、何かのきっかけがあれば、何か起きるといふ。

【委員】

その通り。

【委員】

地震がいつ来るか分からないが、もし地震が起きたとして、地震の大きさなどによってもどうなるかは変わってくるということか。

【委員長】

どういう規模等かによる。

【委員】

そんなことを言い出したら、川岸小や上の原小も建替える必要があるのではないか。

【委員長】

そういうことを言い出したら、中央道も断層の上に乗ってあるので、心配するときはなくなる。そういったことは、当然配慮して施工、計画されている。ただし、完璧ではない。

【委員長】

これまで120年くらいは、災害がなかったようですが。

【委員】

140年です。

【委員長】

ただ、それだから安全というわけではない。ゲリラ豪雨などは予想ができない。岡谷小あたりに起きれば、多分表面的には崩れると思う。どういう被害が起きるかは分からないが。ゲリラ豪雨の危険性は高まってきてはいる。今までにゲリラ豪雨を経験している地形はいいが、経験していないところは、耐えられなくなるということが各地で起きている。経験がない雨を受けると被害が大きく予測が難しい。

【委員】

雨なら子どもを避難させれば問題ないが、地震はいつ来るか分からない。ただ、地震のことを言い出したらどこの学校でも同じ。

【委員】

委員長は専門家なので、こう建てればこの場所でも大丈夫というような、建て方の案はお持ちか。

【委員長】

今普通に盛土をやり、機械を使い十分に締め固めることが可能であるが、昔はそのあたりが十分ではなかった。

【委員】

もし今建てるのであれば、そのように十分に締め固めれば、ここで学校を存続させることは可能か。

【委員長】

何らかの方法で斜面を押さえる必要はある。

【委員】

知識がある方の力を結集すれば何とか可能か。

【委員長】

建物が上にあるので、構造物の下の改良は結構大変である。費用対効果の話にもなってくる。

【委員】

できないこともないが、相当のお金がかかってくると。

【委員長】

今、私の地元区で防災マップを作っている。災害時に、子どもたちを安全に帰宅させるには、帰宅する途中でも危ない箇所は何かしなければいけないという話が出てくる。急激に水が増えるところは心配。広い範囲で見れば、そういう心配も出てくる。

【委員】

そういう学校は他にもありますよね。

【委員長】

土石流が心配なところと河川の増水が心配なところがある。帰宅する途中にそのような場所があるところは。話は変わってしまうが、避難する途中で亡くなるケースもある。普段は何ともないような水路が増水し、道と水路が分からなくなったケースで、避難しないほうが安全というようなこともある。

【委員】

今の技術をもってすれば、この場所で存続することは、可能は可能ということか。

【委員長】

絶対できないわけではない。ただ、土砂災害防止法で急傾斜の指定がかかっているので、下の方に被害を及ぼさないようにしなければいけないし、荷重をかけてはいけない。荷重をかけると、当然、建物の重さで崩れる可能性が出てくる。そういう費用がどのくらいになるかは分からない。

【委員】

平地のところに新しく建てた方が、費用的にはかなり安くすむのか。

【委員長】

そう。ただし、周りから指定されている。

【委員】

周辺の状況がどうなのかというところは、次回の資料に出てくるのか。周辺の状況が分からないと判断が難しいのかなと思う。

【委員長】

次回、土砂災害防止法を指定した場合に、どういう条件が付くかというような資料を用意していただきたい。

【委員】

専門用語がちょっと多いので、ウィキペディアのような説明書があればいいと思う。

【委員長】

他にはよろしいですか。

【事務局】

今後の日程ですが、地質調査の内容および結果については、何回か時間をかけて、勉強会的なことをやっていきたいと考えている。必要な資料も用意しながら、理解を深めていただきたいと考えている。

【委員長】

地盤改良をした場合、現地で新たに建替える可能性はあるのか。

【事務局】

敷地全体として、盛土の安定性や将来に渡って学校敷地としての長期的な評価をしなければいけないため、総体的に考えたなかでは、現地ではなかなか難しいという判断をしている。確かに地盤改良というものはあるが、今ある建物を全部取壊して、さらに地盤改良して、そこにもう一度建直すというのは、口で言うことは簡単だが、はたしてそんなことができるのかということがある。今得られているデータのなかでは、極めて難しいという判断をしている。これまでの調査経過や専門家の方に相談をするなかで、その判断は変わっていない。総体的には非常に難しいと考えている。

【委員】

そこをスタートにするのはいかがなものでしょうか。

【事務局】

誤解のないようお願いしたいが、現地での建替えが難しいというところをスタートにすると、議論にならないというお話を頂戴するが、そのように議論にならないというのは事実。ただ、現地調査の結果、現地での建替えが適さないということ、また、安全性を担保することが極めて難しいという事実をまずは受け止めていただかないといけない。次回以降、対策工法等についていろいろな議論が出てくると思うが、議論を積み重ねていくなかで、結果として、調査結果を受け止めざるを得ないというようにご理解いただけるかどうか、その時間を作りたいという思いでいる。スタート時点での掛け違いみたいなどころがあるので、まずは調査結果がどういう状況なのか、それに対してどういう対策工事があるのかないのか、それが可能なのかどうかということを次回以降、現地視察を含めて、議論をいただいたり、こちらから説明をしたり、識者の方の意見をお聞きしながら、まずはスタートラインを揃えたいと考えている。ご理解をいただきたい。

【委員】

これだけの資料だけでは納得できていないので、今後出していただけるということでよろしいか。

【事務局】

説明会を通じて出した資料は、調査結果の報告書を抜粋して出させていただいたものである。報告書とすれば細かなものがあり、それらを客観的に判断してきているが、ご理解を

いただくには時間もかかると思っている。時間をかけて、疑問点や納得できない点については、ご説明したり、専門家のご意見を頂戴しながらと考えている。

【委員】

これだけでは分からないので、今後出していただきたい。

【委員長】

次に、(3) 今後の日程について、事務局お願いします。

【事務局】

まずは学校を視察したり、調査を委託した業者から説明もいただきながら、最初は勉強会的なものにしたいと考えている。さらに地盤改良などの対策工法の検証を行っていきたいと考えている。その後、ある程度、皆様のご理解が進んだところで、今後のあり方についてご検討いただければという思いでいる。いずれにしても、2年間の任期のなかで一定の方向をまとめてご提言をいただければと考えている。会議は、1ヶ月か1ヵ月半くらいの間隔で開催したいと考えているが、このような資料がほしいといったご意見も出されると思うので、その準備に要する時間によって、変わることもある。

【委員長】

今回は現場を見るが、どういった対策があるのか一つ一つ詰めていければと思う。

【委員】

私は専門家ではないので、いくらデータや資料をいただいても、いいか悪いかの判断ができない。それなら、どうやったら現地で持続させることができるかをご教授いただきたい。費用はかかるが、やれないことはないということであれば、こうしたらできるという方法を提示していただき、法的なこともあるのでその方法は無理だよとか、この方法ならできるのではないかとようになれば、今度は費用の試算になると思うので、その金額を見て、例えば平地に建直すなら10億なのに、現地なら30億というようなら考えなければいけない。何とかこの場所でやれる方法をまずは提示していただき、そのためにクリアしなければいけないことがこれだけある、それらがクリアできたら次はお金はいくらかかるのか、というようになれば、会議としてはスムーズなのかなと思う。

【委員長】

先ほど、事務局から地盤改良の対策工法等を検証していきたいという話があったが、それが当ると思う。

【委員】

是非そのような方向でお願いしたいと思う。

【事務局】

1点だけお願いしたい。くどくて申し訳ないが、私たちは一連の検証を進めてきているので、なぜ現地では難しいと言っているのかを、具体的な対策工法に触れながらご説明したいと思っている。限られた時間のなかで、ただ単に極めて難しいという言葉で説明してきたと

ころもあるので、時間をかけてお話をさせていただきたい。

【委員】

それもそうなのだが、こうすれば現地で存続できるという方法もいっしょに出してほしい。

【事務局】

地盤改良をするということは、現地にどういう機械を入れて、どういう改良をして、それにはどのくらいの時間がかかるか、お金のことは置いておいても、建物を全て撤去し、盛土をもう一度やり直す等、いろいろな方法を検証してきているので、具体的に突っ込んでお話をしたいと思う。それが実現可能かどうかについて、なかなか難しいと判断してきている。

【委員】

その判断はわれわれが行うので、出させていただきたい。

【事務局】

今までは、ただ困難だという説明で止まっていたこともあった。

【委員】

だから、誤解してしまう。

【委員】

調査報告書を見せてもらいたい。また、追加ボーリング調査はいつ行うのか。

【事務局】

いつ調査を行うかまでは、現時点で詰まっていない。

【委員長】

委員会にかけて調査を行うのか。

【事務局】

市の判断で行う。

【委員長】

調査報告書は、建設水道部に行けば見せてもらえる状況にあるのか。

【事務局】

23年、24年にかけての調査業務の報告書があるため、それをご覧いただくようになる。その中には、ボーリングのことや歪み計のデータの報告がある。フルセットになっている。

【委員】

見てすぐ返すのではなく、貸してもらえるか。

【事務局】

ご覧いただくことはできるが、まだご相談させていただきたい。

【委員長】

次回の日程について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

6月8日（土曜日）9時から、岡谷小学校の現地視察を予定している。マイクロバスを用意

するので、8時45分までに市役所北口にお集まりいただきたい。直接学校へ行かれる方は、9時までにお越しいただきたい。当日欠席される委員さんは、前日7日（金曜日）までに教育総務課へご連絡をいただきたい。

【委員】

終了予定時刻は。

【事務局】

午前中いっぱいを用意している。

【委員長】

現場視察の後の打合せは、学校でよいか。

【事務局】

学校で行う。

【委員長】

それでは、次回、6月8日（土）に現地視察ということをお願いしたい。

【委員】

3回目以降は、曜日は決まっているか。

【事務局】

まだ決まっていないため、調整後、連絡する。

【委員長】

次に、(4) その他、事務局から何かありますか。

【事務局】

資料5は、保護者説明会や関係3区への説明会で出された意見・要望等をまとめたもので、議会へお示しした資料になるので、ご確認をいただきたい。

【委員長】

その他何かありますか。なければ、本日の会議は以上になります。ありがとうございました。

閉会 午後9時30分